

〔編集後記〕

本号は、総説1、展望1、話題2、雑報1、ら
いぶらりい1、学会1の構成でお届け致します。
原著はありませんが、いずれも新たな視点を与え
てくれる論文で、十分満足していただけるもの
と思います。

総説「自動車排出ガスによる大気汚染の健康影
響」は、兵庫医科大学教授に千葉大学より昨年転
出された島正之先生による総説です。千葉大学医
学部公衆衛生学教室の過去15年間に亘る大気汚染
に関する研究の集大成とも言うべき内容です。膨
大なデータに基づく深い洞察により問題提起され
ています。また、幹線道路の沿道部に多くの人が
居住している日本の現状についても改めて気付か
されます。

展望「千葉大学における肉眼解剖学の基盤整備
の試み」では、医学教育においては必須の「肉眼
解剖学」の新しい話題が提供されています。現在
の肉眼解剖実習においては、一昔前には考えもし
なかつたような問題点が提起されており、これら
の問題に千葉大学ではどのように取り組まされて
いるのかが紹介されています。いずれの問題も、大
学院大学化、国立大学法人化、情報開示、環境問
題への関心の高まりといった従来なかつた今日の
要因が根底にあると思われれます。医学を志すも
のは誰しも何らかの感慨をもつ肉眼解剖実習に
ついて新たな視点を与えてくれる論文です。

話題「乳児神経芽腫マス・スクリーニングを
めぐって」では、2004年に一旦中止となった尿中
VMA・HVAのマス・スクリーニングの話題につ
いて、分かりやすく紹介されています。欧米諸国
では行われていない乳児神経芽腫マス・スクリー
ニング事業の本邦での行く末に興味を持たれま
す。

話題「心臓血管の再生医療」では、日進月歩の
再生医療の中でも脚光を浴びている心筋再生・血
管再生に関するホットな話題が紹介されていま
す。つい最近まで夢物語であった心臓血管の再生
医療が、すでに一部は臨床応用され、現実のもの
となりつつあることを実感させられます。

本誌の編集後記においても度々触れられている
ように、学術分野においてITが及ぼしている影

響はいまや多大です。関根郁夫先生の雑報「イン
ターネット時代の文献検索」は、ITの技術革新
抜きには語れなくなった医学情報に関する話題を
提供しています。本誌80巻5号の編集後記で平澤
先生が書かれているように、近年、文献へのアク
セスの仕方が大きく変わって来ており、その行く
末は全く想像がつかないように思えます。

文献整理の方法も大きく変わりました。筆者
も、かつては図書館に通い新着雑誌のインデッ
クスに目を通して、興味あるものはコピーしフォル
ダーに整理した時代がありました。しかし、
PDFファイルで整理するようになった現在では、
キャビネットにある論文コピーは古いものに限ら
れ、1996年以降のフォルダーを筆者は作っていま
せん。「あの実験が記載された論文はどれだった
か?」とキャビネット内のフォルダーをひっくり
返して論文コピーを探すということも極めて稀に
なりました。

今は、手元にあるPDFファイル群を全文検索
すると、あっと言う間に目的の論文を見つけて読
むことができます。そればかりか、斜め読みして
いた論文にヒットすることすらあり、再発見する
こともあります。従来のコピーでは成し得なかつ
たことです。いずれ、PDFに限らず論文コピー
自体を手元に置く必要が無くなるのではないかと
さえ思います。世界中の研究者がこの技術の恩恵
に浴していることを考えると、研究者は自分の分
野の技術に追いついて行くだけでは取り残されて
しまうかもしれないという危機感がつのってきます。

先日、私の教室の抄読会で「新着」ではなく
「未着」の「未来の論文」をインターネットより
ダウンロードして紹介した大学院生がおり、時代
の変化をつくづく感じました。本誌も、編集補助
をして下さっている高橋さんの努力により本誌の
情報をインターネットで公開しております。まだ
御覧になっていらっしゃらない方は、千葉医学会
ホームページ<http://www.c-med.org/>にアクセス
して、ご意見をお寄せ下さい。

(編集委員 白澤 浩)